

幼少からアトピーを患い、3年前に松本院を受診。
大きなリバウンドがなく快方へ向かわれている方。

「アトピー治療途中経過」 勝尾大樹 27歳

2016年4月8日

私は幼少の頃からアトピーに悩まされてきました。5歳頃にはもう皮膚科で診察を受けていた覚えがあります。手足はいつもカサカサしていて、ひざの裏はだいたいあかぎれていて動かす度に痛みを覚えるような状態でした。当然医師の方からはステロイドを処方されました。かなり強い部類の薬だったと記憶しています。薬を塗ると数日で患部は良くなるのですが、その後数日経つとまたカサカサしてまた荒れてくるような日々の繰り返しでした。自分自身の性格も相まって、良くなるまでステロイドを塗り、良い状態に戻したら塗るのを止める（忘れる）というなんともいい加減な事を繰り返していたと思います。ただ、医師の方はステロイドで良くなったなら徐々に弱い薬に変えていくといった方針だったと思うのですが、弱い薬を塗っても大した効果がなく、また徐々に元の悪い皮膚に戻っていくような感じでした。そのままステロイドを塗って良くなっては元の状態に戻るということを繰り返した日常を送り、いつしかそれが当たり前のようになっていました。

小学生から中学生にかけて、初期では最も酷い症状が出ていました。小学生の頃は特にお尻が酷く浸出液が固まって張り付いて、下着を脱ぐのが痛くて辛かった覚えがあります。しかし高校に入ってからには依然症状はあるものの、大分軽度な状態になっていました。手指と首に若干湿疹がある程度におさまっていて、もうこのまま治っていくのではないかと思っていた時期もあります。そのまま大学でも小康状態が続き、ある程度の浮き沈みはあれど、生活に支障をきたすような事は無くなっていました。そして社会人として働き始めたのですが、ストレスからか働いて3年目で目に見えて悪化し始めました。今までも悪かった手と首の症状が更に悪くなり、肘やひざ、顔といった前まではおさまっていた部分にも症状が出るようになってしまいました。慌てて皮膚科に行ってもステロイドを貰っても、例によって一時的には良くなるのですがその後今度は光の状態より更に悪化していくような状態に追い込まれてしまいました。このままではまずい、このまま普通の皮膚科に通っていたらどんどん悪化して行くだけだと考え、ステロイドの使用を自分で中断する決心をしました。ネットで調べた民間療法のようなものに頼ってみたものの、身体の状態は酷くなる一方

でした。

そんな折、自分の状態を見かねた母が松本医院に通ってはどうかと勧めてくれました。何故母が松本医院の事を知っていたかという、潰瘍性大腸炎の治療で松本医院に通っていたからです。以前は日に何度もトイレに通って、脂っこいものは殆ど食べられなくなっていた母が、その時にはほぼ普通の生活が出来ていたのも漢方の力は凄いものだと他人事のように考えていました。ただ、自分のアトピーと松本医院とはその時には全く結びつけていませんでした。しかし、母の潰瘍性大腸炎が、ほとんど症状がない状態まで治まっているのを見て、自分のアトピーもなんとかしてくれるのではないかと思い松本医院に行く事を決めました。この決断を勧めてくれた母に感謝しています。

行く数日前から松本医院の HP を読んで、他の患者さんの手記や松本先生の理論を読みました。自分に医学の知見は無かったので全て理解出来たとは言いがたかったですが、それでも以前かかっていた医師の方の話より具体的で説得力があると感じました。そうして松本医院に初めて行く日になりました。2013年の8月の終わりだったと記憶しています。

実際に会った松本先生はとても気さくで話しやすい方で、自分の理論や世の中の事について丁寧に笑いながら教えてくれました。最後に「病気を治すのは医者ではなく自分」というもっともな言葉をいただき、希望を抱いて家に帰る事が出来ました。

実際にすることとしては食前に漢方薬を飲むこと、週に一度、出来ればもっと多く漢方風呂に入ることと、赤と黄色の軟膏を患部に塗ることでした。漢方薬はイメージ通り美味しいものではありませんでしたが、慣れれば苦いお茶のようなものでさほど苦にならずに飲むことが出来ました。漢方風呂に入っていると傷の部分があまり痛くならず、すごく効き目があると実感できるものでした。赤と黄色の軟膏は独特な臭いがあり、自分は気にならなかったのですが使い続けているうちに制服や衣服に臭いが移り、それについて会社の同僚の方から苦情が来るようになりました。これから軟膏を使う方は衣服に臭いが移らないように使い捨ててもいい下着を着たりこまめに洗濯する事をお勧めします。自分の場合は他の方の手記にあるようなリバウンドは今の所起こらず、松本医院に初めて行った時期が最も症状がひどかったです。2016年4月の現在は初めて行った時と比べてかなり症状は改善しており、顔や手や首などところどころ症状はあるもののだいぶ普通の人の皮膚と同じ状態に近づいています。症状の目安の数値の一つである IgE 抗体の値も20000を超えていた数値が3000以下まで下がりました。まだ治ったと油断はできませんがこれからも先生の言い分けを守り治療を続けて完治に近づけていきたいと思えます。色々サポートしてくれた母と、松本先生にはとても感謝しています。